

## 2009年度「学生による授業評価アンケート」結果報告

### 1. 全学的な「学生による授業評価アンケート」実施の経過

名古屋経済大学では、2005年度から全学的な「学生による授業評価アンケート」を実施することにした。

#### (1) 2005年度の「講義」科目対象

2005年度から2年の期間をかけて、講義、演習、実技、実習科目を対象に授業評価アンケートを実施することにした。

2005年度は、講義科目を対象に、それぞれの教員の担当科目の中で1科目を選択し、授業評価アンケートを実施した。総授業数972科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、71科目であり、実施率は7.30%であった。総受講生数36,800人の中で、実施受講生数は5,554人であり、有効回答数は975であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、17.55%であった。

#### (2) 2006年度の「演習、実技、実習」科目対象

2006年度は、演習、実技、実習科目を対象に、それぞれの教員の担当科目の中で1以上の科目について、授業評価アンケートを実施した。総授業数971科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、374科目であり、実施率は38.52%であった。総受講生数36,781人の中で、実施受講生数は7,696人であり、有効回答数は4,588であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、59.62%であった。

#### (3) 2007年度のすべての「講義、演習、実技、実習」科目対象

2007年度は、2005年度と2006年度の授業評価アンケートの実施率があまり高くなかったため、開講されているすべての科目を対象として、授業評価アンケートを実施することにした。2007年度前期開講の半期科目については、7月の第1週に、2007年度後期開講の半期科目と通年科目については、12月の第1週と第2週に実施した。

2007年度前期の授業評価アンケートについては、総授業数291科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、283科目であり、実施率は97.25%であった。総受講生数15,299人の中で、実施受講生数は15,081人であり、有効回答数は9,362であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、62.08%であった。

2007年度後期の授業評価アンケートについては、総授業数601科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、594科目であり、実施率は98.84%であった。総受講生数21,843人の中で、実施受講生数は21,572人であり、有効回答数は12,406であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、57.51%であった。

#### (4) 2008年度の演習(ゼミ、卒業論文)、学外実習を除いたすべての「講義、演習、実技、実習」科目対象

2008年度は、演習群の科目(ゼミ、卒業論文)、学外実習の科目を除いたすべての科目を対象とした。

2008年度前期の授業評価アンケートについては、総授業数310科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、310科目であり、実施率は100%であった。総受講生数15,744人の中で、実施受講生数は15,744人であり、有効回答数は10,393であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、66.01%であった。

2008年度後期の授業評価アンケートについては、総授業数397科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、395科目であり、実施率は99.50%であった。総受講生数20,116人の中で、実施受講生数は20,098人であり、有効回答数は11,073であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、55.10%であった。

## 2. 2009年度の全学的な「学生による授業評価アンケート」実施方法

2009年度は、2008年度と同様に演習群の科目(ゼミ、卒業論文)、学外実習の科目を除いたすべての科目を対象とした。

2009年度の前期の授業評価アンケートについては、総授業数306科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、300科目であり、実施率は98.0%であった。総受講生数14,436人中、実施受講生数は14,190人であり、有効回答数は8,843であった。有効回答数を実施受講生数で割った実施率は、62.3%であった。

2009年度の後期の授業評価アンケートについては、総授業数402科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、395科目であり、実施率は98.3パーセントであった。総受講生数18,074人中、実施受講生数は17,948人であり、有効回答数は9,817であった。有効回答数を実施受講生数で割った実施率は、54.7%であった。

### (1) 2009年度授業評価アンケートの質問項目

アンケートの質問項目は、次の通りである。

1. あなたは、この授業に出席していますか。
2. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。
3. この授業は、シラバスにそって行われていますか。
4. 教員は、授業時間を守っていますか。
5. 授業内容は、わかりやすいですか。
6. 教員の声は聞きとりやすいですか。
7. 授業の速さや進め方は、適切ですか。
8. 教員の教え方には、熱意が感じられますか。
9. 教科書、配布資料が活用されていますか。

10. 板書やスクリーン・モニターは見やすく示されていますか。
11. 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。
12. あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか、次の中から3項目以内で選んで下さい。
  - 1 専門用語がむずかしい。
  - 2 授業がつまらない。
  - 3 授業内容をプリントにしてほしい。
  - 4 受講人数が多すぎる。
  - 5 休講が多い。
  - 6 開講曜日や時限が悪い。
  - 7 学生の取り扱いが不平等である。
  - 8 教員がいばったり、学生を見くだす。
  - 9 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない。
  - 10 授業のための施設、設備に満足できない。
13. その他、この授業について「良かった点」「改善すべき点」があれば記入して下さい。
  - A あなたの所属している学部・学科はどこですか。
    1. 経済学部・現代経済学科
    2. 経営学部・経営学科
    3. 法学部・法学科
    4. 人間生活学部・教育保育学科・幼児保育学科
    5. 人間生活学部・管理栄養学科
  - B あなたは、何年度入学ですか。
    1. 2009年度
    2. 2008年度
    3. 2007年度
    4. 2006年度
    5. 2005年度
    6. 2004年度
    7. 2003年度
    8. 2002年度
    9. 科目等履修生・研究生
  - C あなたは、何年生ですか。
    1. 1年生
    2. 2年生

3. 3年生
4. 4年生
5. その他

D あなたは、この授業のシラバスを読みましたか。

1. はい
2. いいえ

以上の質問項目の1から11までについては、5段階評価で回答をする。

## (2) 質問項目の改善点

2009年度の質問項目は、2008年度の質問項目のうち、次の点が加筆・修正し改善されている。

1. 質問1の回答の出席率を現状の出席状況に合わせて、2.かなり出席（70%から80%に修正）、3.どちらともいえない（50から70%に修正）、4.あまり出席してない（30%から50%に修正）、5.ほとんど出席してない（10%から30%に修正）とした。
2. 新たに質問3と質問Dにシラバスに関する質問を加えた。
3. 質問9のうちの「板書」を削除した。
4. 質問10を実態に合わせて「板書やスクリーン・モニターは見やすく示されていますか」に修正した。
5. 質問12の回答のうち「黒板の字が読みにくい」を削除した。
6. 新たに質問13に自由記述（「良かった点」「改善すべき点」）を設けた。

以上のように、2009年度の質問項目にはシラバスに関する質問（質問3と質問D）と自由記述欄（質問13）を加えている。質問項目AからCは、学生の属性であり集計処理に際して利用した項目である。

## 3. 授業評価アンケートの集計結果

### (1) 学部別有効回答数（実施率）

学部学科ごとの有効回答数（実施率）は、次の通りである。

教員所属別	前期	後期
経済学部・現代経済学科	1,559(55.2%)	2,036(48.2%)
経営学部・経営学科	2,090(57.9%)	1,725(47.0%)
法学部・法学科	1,605(61.9%)	2,228(48.8%)
人間生活科学部	3,656(74.2%)	3,386(74.3%)
教育保育学科・幼児保育学科	1,112	1,518
管理栄養学科	1,944	1,868
短期大学部・保育科・キャリアデザイン学科	528(50.9%)	314(45.6%)

人間生活科学部は前後期とも受講生数のアンケート実施率が70%以上であり、日頃の授業の出席率を反映し、他学部より実施率が高い。経済・経営・法学部の前期より後期の実施率減少は、授業の出席率低下を示している。

以上の学部ごとの有効回答数(実施率)は、すべて教員の所属データに基づいている。そのために、兼任・兼担の場合のデータ処理が開講学部学科科目とされていないという問題がある。今後は、開講学部学科科目としてのデータ処理としたい。

## (2) アンケートの質問項目ごとの分析

### ① 2009年度からの評価数値の変更

2009年度からの評価数値が変更されている。2008年度までは、5段階の回答番号にあわせた回答1が一番良く、回答5が最下位としていたため、平均値の値が小さいほどよい結果を表すこととなっている。この方法はわかりにくいこともあり、数値が高いほどよい結果を表すような計算のポイント制に改めた。

2009年度は回答1…5ポイント、回答2…4ポイント、回答3…3ポイント、回答4…2ポイント、回答5…1ポイントとして計算している。その結果、数値が5に近いほどよい結果を表し評価が高く、1に近いほど評価が低くなる。平均値が2008年度結果と逆の評価になるので注意が必要である。

### ② アンケート質問項目の学部別平均値と分析

#### 1. あなたは、この授業に出席していますか。

- |   |             |                          |
|---|-------------|--------------------------|
| 1 | ほとんど出席している  | (出席率：90%以上)              |
| 2 | かなり出席している   | (出席率：80%以上) (2008年度 70%) |
| 3 | どちらともいえない   | (出席率：70%以上) (2008年度 50%) |
| 4 | あまり出席していない  | (出席率：50%以上) (2008年度 30%) |
| 5 | ほとんど出席していない | (出席率：30%以上) (2008年度 10%) |

#### 平均値

	前期	後期
経済学部	4.4	4.4
経営学部	4.4	4.4
法学部	4.4	4.3
人間生活科学部	4.7	4.6
短期大学部	4.4	4.4

出席については、人間生活学部の平均値が他学部に比べて前期4.7、後期4.6と高く、出席状況がよい。人間生活学部の管理栄養学科・教育保育学科ともに、免許や資格に関係する科目や必修科目が多く、固定したクラス単位の授業開講が影響していると思われる。

2. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。

- 1 非常に意欲的である
- 2 かなり意欲的である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり意欲的でない
- 5 全く意欲的でない

平均値

	前期	後期
経済学部	3.9	4.0
経営学部	4.0	4.1
法学部	3.9	3.9
人間生活科学部	4.0	4.1
短期大学部	3.8	4.3

授業への意欲は、どの学部も平均値 4.0 前後であり、「かなり意欲的である」傾向を示す。法学部を除き後期には若干高くなっている傾向がみられる。

3. この授業は、シラバスにそって行われていますか。(2009 年度より追加)

- 1 行われている
- 2 ほぼ行われている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり行われている
- 5 全く行われていない

平均値

	前期	後期
経済学部	4.0	4.1
経営学部	4.0	4.2
法学部	4.0	4.0
人間生活科学部	3.9	4.0
短期大学部	3.9	4.2

シラバスについては、2009 年度より新設した質問項目である。どの学部も平均値 4.0 前後であり、シラバスにそって「ほぼ行われている」としている。この設問 3 に関しては設問 D「シラバスを読みましたか」との関連をみるため、回答「はい」と「いいえ」とのクロス集計が実施されている。

質問 3 と質問 D とのクロス集計の結果は、次の通りである。

・前期の場合 (%)

質問3	質問D	経済学部	経営学部	法学部	人間生活科学部	短期大学
回答1	はい	51.2	49.8	51.1	52.6	48.4
	いいえ	23.9	19.9	21.0	22.1	20.3
回答2	はい	33.6	33.2	35.0	31.2	32.1
	いいえ	23.7	28.7	29.7	25.7	28.0
回答3	はい	12.6	12.8	11.8	13.1	15.5
	いいえ	47.0	46.4	45.9	49.4	46.7
回答4	はい	1.4	1.8	1.3	1.4	1.6
	いいえ	2.2	1.5	1.3	1.0	2.3
回答5	はい	1.2	2.0	0.6	1.2	2.4
	いいえ	2.8	2.4	1.8	0.6	1.9

・後期の場合 (%)

質問3	質問D	経済学部	経営学部	法学部	人間生活科学部	短期大学
回答1	はい	50.3	53.4	46.7	56.4	64.2
	いいえ	24.6	26.6	24.3	27.4	27.9
回答2	はい	33.2	32.0	37.0	28.4	28.5
	いいえ	28.3	28.4	27.8	25.6	35.7
回答3	はい	14.3	12.4	14.6	13.5	7.3
	いいえ	44.1	46.4	43.2	44.6	35.1
回答4	はい	1.2	0.9	0.6	0.9	0
	いいえ	1.3	1.5	1.9	0.4	0
回答5	はい	1.0	0.9	1.0	0.6	0
	いいえ	1.7	1.3	1.7	0.4	1.3

質問3について、質問Dとのクロス集計の結果、全学部において「シラバスを読んでいる」50%近くの学生は授業が「シラバスにそって行われている」と回答し、30%前後の学生が「ほぼ行われている」と回答している。また、「シラバスを読んでいない」40%前後の学生は、「どちらともいえない」の回答となっている。しかし、「シラバスを読んでいない」にもかかわらず、どの学部にも授業が「シラバスにそって行われている」や、「ほぼ行われている」と矛盾した回答の学生が25~30%もみられる。この結果は、シラバスに対する認識不足や、アンケート項目のうち、先に質問3に回答し、すべて質問の最後にシラバスを読んだかどうかの質問順のため、矛盾を修正することなく回答していると思われる。

4. 教員は、授業時間を守っていますか。(2008年度質問3)

- 1 非常に守っている
- 2 かなり守っている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり守っていない
- 5 全く守っていない

平均値

	前期	後期
経済学部	4.2	4.3
経営学部	4.2	4.3
法学部	4.2	4.2
人間生活科学部	4.2	4.3
短期大学部	4.2	4.5

授業時間を守っているかについては、どの学部も平均値 4.2~4.5 であり、ほとんどの教員が「授業時間を守っている」といえる。

5. 授業内容は、わかりやすいですか。(2008年度質問4)

- 1 非常にわかりやすい
- 2 かなりわかりやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなりわかりにくい
- 5 非常にわかりにくい

平均値

	前期	後期
経済学部	3.6	3.7
経営学部	3.8	4.0
法学部	3.8	3.8
人間生活科学部	3.6	3.8
短期大学部	3.4	4.3

授業内容については、どの学部も「かなりわかりやすい」の平均値 4.0 に近く、後期に法学部を除いて平均値が若干高くなっている。しかし、質問 12 の「専門用語がむづかしい」、「授業がつまらない」との回答がいずれも 30%前後示す結果からみて、質問 5 と 12 のクロス集計などによって、わかりにくい内容の詳細を検討することも必要である。

6. 教員の声は聞きとりやすいですか。(2008年度質問5)

- 1 非常に聞き取りやすい
- 2 かなり聞き取りやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなり聞き取りにくい
- 5 非常に聞き取りにくい

平均値

	前期	後期
経済学部	3.9	4.0
経営学部	4.2	4.3
法学部	4.2	4.1
人間生活科学部	4.0	4.1
短期大学部	3.6	4.5

授業内容については、どの学部も「かなり聞き取りやすい」の平均値4前後をしめす。また、後期に法学部を除いてこの平均値が若干高くなっている。

7. 授業の速さや進め方は、適切ですか。(2008年度質問6)

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

平均値

	前期	後期
経済学部	3.8	3.9
経営学部	3.9	4.1
法学部	4.0	3.9
人間生活科学部	3.8	4.0
短期大学部	3.7	4.4

授業の速さや進め方については、どの学部も「かなり適切である」の平均値4前後をしめし、後期にこの平均値が若干高くなっている。

8. 教員の教え方には、熱意が感じられますか。(2008年度質問7)

- 1 非常に感じられる
- 2 かなり感じられる
- 3 どちらともいえない

- 4 あまり感じられない
- 5 全く感じられない

	平均値	
	前期	後期
経済学部	4.0	4.0
経営学部	4.1	4.2
法学部	4.1	4.0
人間生活科学部	4.0	4.1
短期大学部	3.8	4.4

教員の教え方の熱意については、平均値 4 前後をしめし、どの学部も熱意がかなり感じられている。法学部を除いて後期にこの平均値が若干高くなっている。

**9. 教科書、配布資料が活用されていますか。（2008 年度質問 8）**

- 1 非常に活用されている
- 2 かなり活用されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり活用されていない
- 5 全く活用されていない

	平均値	
	前期	後期
経済学部	3.9	3.8
経営学部	3.9	4.1
法学部	4.0	4.0
人間生活科学部	4.0	4.1
短期大学部	3.8	4.4

教科書、配付資料の活用については、平均値 4 前後を示し、どの学部も「かなり活用されている」。

**10. 板書やスクリーン・モニターは見やすく示されていますか。（2008 年度質問 9 修正）**

- 1 非常に見やすい。
- 2 かなり見やすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなり見にくい
- 5 非常に見にくい

	平均値	
	前期	後期
経済学部	3.7	3.8
経営学部	3.8	4.0
法学部	3.8	3.7
人間生活科学部	3.7	3.9
短期大学部	3.5	4.2

2008年度は「視聴覚機器（ビデオ、OHP、プロジェクターなど）が活用されていますか」の質問内容であったが、視聴覚機器が使用できない教室のため、「板書やスクリーン・モニター」とした。どの学部も「かなり見やすい」をしめし、法学部を除き、後期に見やすい傾向が若干高くなっている。

**11. 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。（2008年度質問10）**

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

	平均値	
	前期	後期
経済学部	3.8	3.9
経営学部	3.9	4.0
法学部	3.8	3.9
人間生活科学部	3.8	4.0
短期大学部	3.7	4.2

授業の妨げに対する教員の対応は、どの学部も平均値4前後であり、対応が「かなり適切である」としている。後期に平均値が若干高なり、その対応の適切度が少し増している。

**12. あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか、次の中から3項目以内で選んで下さい。（2008年度質問11）**

- 1 専門用語がむずかしい。
- 2 授業がつまらない。
- 3 授業内容をプリントにしてほしい。 (2008年度回答4)
- 4 受講人数が多すぎる。 (2008年度回答5)

- 5 休講が多い。 (2008 年度回答 6)
  - 6 開講曜日や時限が悪い。 (2008 年度回答 7)
  - 7 学生の取り扱いが不平等である。 (2008 年度回答 8)
  - 8 教員がいばったり、学生を見くだす。 (2008 年度回答 9)
  - 9 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない。 (2008 年度回答 10)
  - 10 授業のための施設、設備に満足できない。 (2008 年度回答 11)
- (2008 年度回答 3 「黒板の字が読みにくい」 廃止)

質問 12 の 3 つ以内の回答 (%) の結果は、次の通りである。

	経済学部	経営学部	法学部	人間生活科学部	短期大学
	前期/後期	前期/後期	前期/後期	前期/後期	前期/後期
回答 1	30.2/34.3	37.4/42.2	32.3/34.4	34.4/36.5	31.2/35.1
回答 2	27.1/24.8	20.7/20.1	26.1/26.2	23.0/23.6	28.0/18.7
回答 3	12.9/16.9	13.2/11.6	11.8/10.9	15.0/11.8	13.7/6.7
回答 4	10.0/6.1	6.5/9.3	5.4/5.4	5.3/6.7	6.2/19.4
回答 5	1.8/2.2	1.9/2.4	4.1/3.0	1.4/3.3	2.6/7.5
回答 6	4.5/5.9	4.8/4.1	3.8/6.3	3.0/3.9	2.4/2.2
回答 7	3.8/3.1	4.0/2.4	3.1/2.6	4.1/2.5	5.6/2.2
回答 8	3.0/3.3	4.9/4.0	2.8/4.0	5.3/3.1	4.4/0.7
回答 9	3.4/1.5	2.5/1.2	6.2/4.2	5.1/4.4	2.8/0
回答 10	3.4/2.0	3.9/2.7	4.4/3.1	3.4/3.9	3.0/7.5

授業への不満については、前後期とも一番多いのは回答 1 の「専門用語がむつかしい」である。その他、回答 2 の「授業がつまらない」、回答 3 の「授業内容をプリントにしてほしい」の順である。「専門用語がむつかしい」や「授業がつまらない」とする学生については、他の質問項目とのクロス集計によってその関連を検討することも必要であろう。

### 13. その他、この授業について「良かった点」「改善すべき点」があれば記入して下さい。(2009 年度新設)

この質問は設定された自由記述欄に記入する。

学生の生の声を知るために 2009 年度に新設された授業について「良かった点」や「改善すべき点」を自由に記述するこの質問項目 13 の処理については、担当教員が授業の現状を把握し、授業の改善に役立てる「結果の考察」(現状の分析・改善点)を書く際に、データ処理された質問 1 から 12 までのアンケート結果の数値と合わせて参考資料として生かされる。担当教員がこのアンケートの自由記述をみることができるようにするために、アンケート実施後のすべての用紙は、データ処

理されたアンケート結果の資料と一緒に科目ごと各教員に渡っている。各教員の処理にまかせている自由記述の全体としての処理方法については、今後検討しなければならない。

**D あなたは、この授業のシラバスを読みましたか。**

1. はい
2. いいえ

設問 D の回答 (%) の結果は、次の通りである。

	経済学部	経営学部	法学部	人間生活科学部	短期大学
回答	前期／後期	前期／後期	前期／後期	前期／後期	前期／後期
1 はい	58.1／56.9	57.3／66.9	50.1／57.0	30.1／31.3 (教保 34.8／37.1) (管栄 27.5／26.2)	49.1／49.5
2 いいえ	41.9／43.1	42.7／33.1	49.9／43.0	69.9／68.7 (教保 65.2／62.9) (管栄 72.5／73.4)	50.9／50.5

授業のシラバスを読んだかについては、経済・経営・法学部ともに 50～60%の学生が「はい」と回答している。逆に 40～50%の学生が授業のシラバスを読んでいない。経営学部・法学部は後期にシラバスを読んだ傾向が高くなっている。しかし、人間生活科学部の学生は、前後期ともシラバスを読んでいない学生が 60～70%と多い。特に、管理栄養学科の学生の場合、前後期とも 70%以上がシラバス読んでないと回答し、また、後期に読んでいない傾向が高くなっている。これら人間生活科学部の傾向は、必修科目が多くシラバスを読むことなく履修登録をしていることによるとみられる。また、設問 3 の「この授業は、シラバスにそっておこなわれていますが」との関連については、シラバスを読んでいないのかかわらず「シラバスにそって行われている」と矛盾する回答をしめしている。

**4. 検討課題**

2009 年度の年度前期及び後期の授業評価アンケートについて、次のことを検討課題として指摘する。

**(1) ゼミを対象にした授業評価アンケートの実施**

2008 年度からの検討課題であるゼミを対象にした授業評価アンケートの実施についてである。FD 委員会ワーキンググループにおける 2 回の検討の結果、現状においてはアンケート回収率及び多様な処理事務負担において Web 方法より用紙方法が適当であると判断されている。質問項目については、現行の授業評価アンケート項目を参考にし

たアンケート案が作成されている。また、ゼミについては、授業評価アンケート項目がなじまない場合があり、自由記述の処理も含めたさらなる検討が必要とされる。

## (2) アンケート実施率（出席率）向上

受講数に対し、その実施率（有効回答数を受講生数で割る。アンケート実施日の学生の出席率）が前期 62.3%、後期 54.7%とあまり高くなく、後期の方が低い。実施率をどのようにして高めるのか。日頃の授業への学生の出席率を高める方策が求められている。

## (3) 少人数科目のアンケート実施について

少人数科目の場合のアンケートの統計処理の有効性が疑問視されている。2009年度は、アンケート実施数 9 名以下の場合、前期 45 科目、後期 22 科目、5 名以下の場合、前期 32 科目、後期 51 科目、2 名以下の場合、前期 8 科目、後期 24 科目であった。履修登録少人数科目のアンケート実施については検討されなければならない。

## (4) アンケート質問項目の精選とデータ処理について

質問項目については、これまで実施してきたアンケート項目を継承したかたちで進められていた。どの質問項目が必要か、これまでのアンケート結果によってこれらを精選する必要がある。たとえば、2008 年度では自由記述の質問がないかわりに質問項目 12 を設けて回答 3 つ選択させていたが、質問 13 の自由記述が設けられたので質問 1 2 との関係についての検討がある。また、質問 1 から 11 については、学生自身の自己評価と教員評価との質問のバランス、及び、各質問項目の関係についての見直しが必要と思われる。

そして、質問のデータ処理についての検討が必要であろう。たとえば、2009 年度に新設した質問項目の場合については、シラバスに関する質問 3 と質問 D とのクロス集計の結果、その他関連のある質問項目とのクロス集計処理や、質問 13 の自由記述（「良かった点」「改善点」）の有効な処理方法によって自由記述内容をデータとして残していくことが課題である。さらに、アンケート結果からみた各質問項目のクロス集計による関連についての検討がある。

## (5) アンケート結果の公表について

授業評価アンケートの結果の公表は、2007 年度から授業評価アンケートの結果報告書を作成し、教員に配布するとともに、大学のホームページで公開している。2009 年度の場合も、同様の措置をとる。また、授業評価アンケートの結果については、各教員がその結果を生かしていくために、2008 年度から授業評価アンケート結果についての「現状の説明」と「改善点」に分けて考察し、それを PDF ファイルにしている。2009 年度もこの「結果の考察」を実施し、PDF ファイルを作成している。「結果の考察」の PDF ファイルは、2008 年度より学内のホームページに掲載し学生も見られるようにしている。2009 年度の場合も、同様の措置をとる。「結果の考察」PDF ファイルの大学のホームページ公開については、これの冊子作成と同様、検討課題となっている。

#### (6) 「アンケート結果」と「結果の考察」のまとめについて

アンケート結果は、質問ごとの5段階回答率とその平均値の基本統計表、この平均値の棒グラフ、質問Dと質問3のクロス集計表として、学部別、教員別、科目別に報告書を作成している。また、別に、このアンケート結果と自由記述のアンケート内容を参考資料として各担当教員が執筆する「結果の考察」のPDFファイル（アンケート結果の平均値、現状の説明、改善点が記載）を作成している。しかし、これは冊子にしている。「結果の考察」のPDFファイル作成は、学生と教員の双方向のやりとりが必要であるとして、教員が授業改善を考え、学生がアンケート結果を見られるために2008年度から開始されている。

これを引き継いだ2009年度では、担当教員に配布される統計処理された「アンケート結果」と担当教員が執筆する「結果の考察」のPDFファイルを一つにした報告書の作成が検討課題となっている。

以上